

当町における社会教育行政の現状

◆ 東日本大震災前の大熊町における社会教育施設（同じ色のものは併設）

	大熊町公民館	農村改善センター	大熊町文化センター	大熊町図書館	民俗伝承館
開館	1971年7月	1981年10月	1992年4月	1996年12月	
機能	講座・貸館	約500人収容ホール・スタジオ・研修室		蔵書約13万点	常設展示
現状	解体予定	解体予定	解体予定	R4度中解体予定	

※ 平成23年3月11日時点の人口11,505人、行政区数21地区

※ 社会教育に関する業務及び上記施設は生涯学習課が所管。スポーツ関係は「スポーツ振興課」。

● 大熊町公民館

延床面積約906㎡

主な機能 講義室（3）、講堂、研修室（2）、  
料理実習室、事務室（臨時職員1人）

英会話、パソコン教室など平成22年度時点で12講座  
町の21行政区の集会所はそれぞれ地区に設置されている



● 大熊町文化センター・農村改善センター

延床面積約4,575㎡（両センターの合計）

主な機能 ホール、リハーサル室、スタジオ、  
事務室（生涯学習課長以下13人）  
農業経営研修室、特別研修室、会議室等

先に整備された農村改善センターに文化センターを増設  
絵画や彫刻等の美術作品をホワイエ等に配置している



● 大熊町図書館・民俗伝承館

・図書館

延床面積約1,879㎡

主な機能 開架フロア、閉架書庫、BM書庫、会議室  
視聴覚ホール、事務室（館長以下9人）

蔵書約13万点（視聴覚等含む）

「読書の町」を代表する施設

・民俗伝承館

延床面積約428㎡

主な機能 常設展示室（移築古民家）、企画展示室、収蔵室  
無人の常設展示

収蔵は規模・機能とも収蔵庫というより倉庫



## ◆ 東日本大震災後

	公民館的役割	文化センター的役割	図書館	民俗伝承館
避難先	梨の実サロン	避難先施設	避難先図書館	仮収蔵庫(県施設)
町内	交流施設 link する	交流施設 link する	Link する図書コーナー	仮収蔵スペース (総合体育館)

※ 令和4年4月31日時点の人口10,092人 町内居住推計928人(住民票あり372人・帰還者164人)

主な避難先 いわき市4,530人 郡山市1,013人 会津若松市542人 県外計2,322人

※ 震災前の「生涯学習課」「スポーツ振興課」が「教育総務課」に統合され、現在に至る。

※ 震災後の生涯学習活動、コミュニティ団体については参考資料参照。

## ● 梨の実サロン(所管課:いわき出張所)

避難先での町民の集いの場として町が設置。直営で手芸、体操、卓球、寄せ植え等の講座を開催  
(参考:5月のイベント参加者1回あたり1~8名、計80(男性11、女性69)参加)

令和4年度で閉鎖予定。会津若松市のサロン「ゆっくりすっぺ」は令和2年に閉鎖

いわき、会津若松の両出張所、中通り連絡事務所を活用

## ● 大熊町交流施設 link する(所管課:産業課)

令和3年10月、大川原地区復興拠点内にて開館

延床面積約1,671㎡

主な機能 多目的ホール(200人収容)、運動スタジオ  
図書コーナー、研修室(2)、音楽スタジオ  
クッキングスタジオ、キッズルーム

指定管理制度を導入。ホール、研修室等利用料金あり

図書コーナーは一般貸出不可



## ● 県文化財センター白河館「まほろん」(県施設)

原子力発電所事故に伴う文化庁の被災文化財等救済事業により、避難自治体からレスキューされた文化財を仮保管するため、施設内に仮収蔵庫が設置されている。

大熊町民俗伝承館の所蔵資料約1682件を仮保管中

東日本大震災から10年の復興期間が終了し、県を通じて文化庁からは資料の返還時期の提示を求められている。

## ● 大熊町総合体育館(所管課:教育総務課)

帰還困難区域内に所在し、現在はスポーツ施設としては休館中であり、震災後に収集した文化財資料の仮保管場所として利用している。

資料数約1300件(令和4年6月現在)